

とうしん美濃陶芸美術館 展示作品入替のお知らせ

とうしん美濃陶芸美術館は、7月5日に展示作品の入替を行いました。今回は美濃陶芸作品永年保存事業において平成20年度（第23回）から平成25年度（第28回）および平成27年度（第30回）に選定された作品を展示します。初めて展示する作品ばかりですので、以前にご来館いただいた方でも再度お楽しみいただけます。是非ご来館ください。

また同時に「美濃陶芸 無形文化財保持者 茶碗展」も開催しております。現代美濃陶芸作家の作品の数々をごゆっくりご覧ください。なお、今回の展示は平成29年1月9日までとなっております。

美濃陶芸作品永年保存事業選定作品展Ⅲ

年度	回次	作品名	作者名
平成20年度	(第23回)	瀬戸黒茶垵	人間国宝 荒川 豊蔵
平成20年度	(第23回)	悠蹟	加藤 保幸
平成20年度	(第23回)	Freeze Flame(凍った炎)	加藤 委
平成20年度	(第23回)	青白磁瑞香文皿	塚本 満
平成21年度	(第24回)	天目彩釉大皿	久野 勝生
平成21年度	(第24回)	湖畔の夕映え	加藤 明子
平成21年度	(第24回)	立ち上る像	加藤 智也
平成22年度	(第25回)	志野水指	人間国宝 加藤 孝造
平成22年度	(第25回)	つながるかたち	小栗 寿賀子
平成22年度	(第25回)	面	伊藤 慶二
平成22年度	(第25回)	緑釉花器	鈴木 徹
平成23年度	(第26回)	かげを纏うかたち	猪倉 高志
平成23年度	(第26回)	悠久	安藤 工
平成23年度	(第26回)	Batista	川端 健太郎
平成24年度	(第27回)	白化粧線紋大皿	鈴木 秀俊
平成24年度	(第27回)	志野壺	林 正太郎
平成24年度	(第27回)	光器	新里 明士
平成25年度	(第28回)	クリスタル硝子皿	各務 鑛三
平成25年度	(第28回)	練彩大壺	伊藤 秀人
平成25年度	(第28回)	朽葉釉華紋花器	田中 孝
平成27年度	(第30回)	器 加飾技法 漆蒔	徳田 吉美
平成27年度	(第30回)	静寂	加藤 捷信
平成27年度	(第30回)	灰釉花器	大野 繁保

The 3rd Mino Ceramic Art SELECTION

2016 7.5^火 — 2017 1.9^{月・祝}

【会場】とうしん美濃陶芸美術館

【開館時間】10:00-17:00

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日) 12/30-1/3

入場無料



第23回 平成20年度
人間国宝 荒川豊蔵「瀬戸黒茶碗」



第26回 平成23年度
猪倉高志「かげを纏(まと)うかたち」



第30回 平成27年度
徳田吉美「翹 加飾技法 漆蒔」



第25回 平成22年度
伊藤慶二「面」



第25回 平成22年度
人間国宝 加藤孝造「志野水指」



第25回 平成22年度
鈴木 徹「緑釉花器」



第26回 平成23年度
川端健太郎「Batista」

美濃陶芸文化の
発信

Toshin Mino Ceramic Art Museum

とうしん美濃陶芸美術館は、東濃信用金庫が、地域の人材育成と美濃陶芸文化の発信を目的に建設した「とうしん学びの丘“エール”」の一施設として、平成27年5月7日に開館いたしました。

美濃焼はおよそ1300年もの長い歴史を持ち、16世紀後半からの桃山陶では黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった技術を生み出しました。現在も陶磁器出荷額全国一を誇るとともに、国の重要無形文化財保持者（いわゆる「人間国宝」）を多数輩出しており、まさに美濃焼は日本を代表するやきものといえます。

当美術館は、東濃信用金庫が昭和61年度から行っている美濃陶芸作品永年保存事業で購入した作品をはじめ、東濃信用金庫が所蔵するコレクションなど、現代美濃陶芸の作品を広く皆さまにご覧いただくことを目的としています。

自生の大王松を囲むように建設された円形の建物は、通路両側に大小47の展示ブース、中庭に石灯籠を配しました。和の趣を味わいながら、ゆっくりと美濃陶芸の名品をご鑑賞ください。



【電車でのアクセス】
名古屋駅→JR中央本線多治見駅下車（快速35分）→タクシー
約15分または東鉄バス・久々利線「虎渓山」下車（徒歩5分）

【お車でのアクセス】 駐車場：無料（150台）
多治見ICから約10分
「住吉町5」交差点より北へ約1.5km

 **とうしん美濃陶芸美術館**
Toshin Mino Ceramic Art Museum

〒507-0014 多治見市虎渓山町4丁目13番地1
とうしん学びの丘“エール”内
TEL 0572-22-1155 FAX 0572-22-1197